

書道

受験番号

指導の構想を練る時間：5分間 模擬授業の時間：5分間

（1）本試験のねらい

学級全体を指導する場面において、指定された学年の学習内容について、留意点を示しながら適切な指導ができるかを評価します。

（2）問題の内容

あなたは、第1学年の書道Ⅰを担当しています。楷書の学習の小単元として顔真卿の「顔氏家廟碑」の学習に取り組んでおり、本時はその2時間目の授業となります。前時に提出させた臨書作品を見ると、この単元より前に学習した「九成宮醴泉銘」の影響を受けている生徒が多くいることがわかりました。本時の学習として、生徒に説明しなければならないことは何か、ポイントになることを明確にして生徒全体に指導しなさい。

ただし、場面設定として、授業で取り組む古典として「顔氏家廟碑」が2つ目で、これまでに古典の臨書では「九成宮醴泉銘」しか取り組めていないものとします。また、前時では顔真卿の人となりや顔真卿の他の古典についての説明に時間を要したため、古典の特徴についての説明は加えていない状態で臨書に取り組んだものとします。

なお、ホワイトボードマーカーを使用してもよい。

令和八年度採用 高等学校 書道 実技試験(試験時間二時間三十分)

次の問題一〜七について、指示に従って所定の解答用紙に書きなさい。

〈注意事項〉

- * 持参した用紙で練習してもよいが、提出する作品は所定の解答用紙とする。
- * 提出する作品は一問につき一枚とする。
- * 提出する全ての作品の右上にボールペンで受験番号を書くこと。

例

受験番号 ※大きく書くこと
提出作品

- * 解答用紙には折り目をつけてもよい。
- * 提出する解答用紙に下書きはしないこと。

問題一

別紙①の漢字の古典「天柱(山)之陽」の五字を半紙に臨書しなさい。

* 紙は縦長で使用すること。

ただし(山)の字はこの古典に調和するように書き、落款は書かない。

問題二

別紙②の漢字の古典「楊少師 李西臺筆意 試使東坡復為之 未必及此」を画仙紙半切に臨書しなさい。

* 落款は「岐郎臨」とし、印の形・大きさ・位置がわかるように赤サインペンで示すこと。

問題三

次の漢詩を画仙紙(半切または全紙二分の一)に創作しなさい。

空山不見人 但聞人語響

返景入深林 復照青苔上

* 書体・構成・紙の縦横は自由。

* 全紙を半切または全紙二分の一の大きさに切って書くこと。

* 落款は「桜子書」と書くこと。

* 落款には「王維詩」または「王維詩 鹿柴」を加えてもよい。

* 落款印の形・大きさ・位置がわかるように赤サインペンで示すこと。

問題四

別紙③の仮名の古典「わがせこが ころものすそを ふきかへし

うらめづらしき あきのはつかぜ」を半紙に臨書しなさい。

- * 落款は書かない。
- * 半紙を縦長に二つ折りにして、その右半分の中央に臨書すること。
- * 実寸大で臨書すること。
- * 敷き写しはしないこと。

問題五

次の句を「仮名」の作品として色紙に創作しなさい。

おもしろうて やがてかなしき 鵜舟かな

- * 構成、漢字と仮名の変換、変体仮名の使用は自由。
- * 落款を入れる場合は、「芭蕉句」と書くこと。
- * 落款印の形、大きさ、位置がわかるように赤サインペンで示すこと。

問題六

次の文章は夏目漱石の「草枕」の一節である。「漢字仮名交じりの書」の作品として画仙紙(半切または全紙二分の一)に創作しなさい。

智に働けば角が立つ 情に棹させば流される
意地を通せば窮屈だ 兎角に人の世は住みにくい

- * 書体・構成・紙の縦横は自由。
- * 漢字と仮名の変換はせず、変体仮名は使用しないこと。
- * 全紙を半切または全紙二分の一の大きさに切って書くこと。
- * 落款は「太郎書」と書くこと。
- * 落款には「漱石の文より」または「漱石 草枕より」を加えてもよい。
- * 落款印の形・大きさ・位置がわかるように赤サインペンで示すこと。

問題七

次の文章を「一筆箋」として書くこととして、一筆箋解管用紙に体裁よく収まるよう書きなさい。

この度は結構なお品をお送りいただきまして、誠にありがとうございます。
家族で美味しくいただきました。取り急ぎお礼まで。

- * 毛筆で書くこと。
- * 名前は書かない。
- * 行書または行書に近い楷書で書くこと。
- * 漢字と仮名の変換はせず、変体仮名は使用しないこと。

別紙①

問題一 「天柱(山)之陽」

著作権保護の観点により、掲載いたしません

山

著作権保護の観点により、掲載いたしません

別紙②

問題一 「楊少師 李西臺筆意 試使東坡復為之 未必及此」

著作権保護の観点により、掲載いたしません

別紙③

問題四

「わがせいが
ころものすそを
ふきかへし
うらめぶらしき
あきのはつかぜ」

著作権保護の観点により、掲載いたしません